

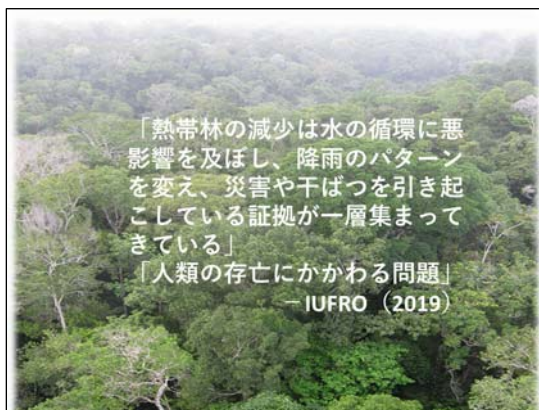
開催趣旨説明

井上 泰子（森林総合研究所国際連携・気候変動研究拠点主任研究員）

本日の国際セミナーの趣旨について説明させていただく。



世界同時多発的な森林火災は地球からのウェークアップコールだと、昨日の専門家会合でイギリスから来ていただいた Carbon Plus Capital¹の Niall Marriott さんも指摘していた。



国際森林研究機関連合² (IUFRO) は「熱帯林の消失は、人類の存亡に関わる問題だ」と題したプレスリリースを昨年発表し、「熱帯林の減少は水の循環に悪影響を及ぼし、降雨のパターンを変え、災害や干ばつを引き起こしている証拠が一層集まってきた」と訴えている。

¹ <http://www.carbonpluscapital.com/>

² <https://www.iufro.org/>



パリ協定は2020年、つまり今年の本格実施を目指して、2018年までにモダリティやルールを協議し、合意して締約国会議で採択することを目指して交渉が行われてきたが、残念ながら、昨年末のCOP25で積み残された6条などの課題については合意できなかった。しかしながら、いわゆる2°C目標などを達成するには、排出削減の支援を提供することで途上国の緩和コストの負担を和らげる仕組み、つまり市場アプローチ等により、緩和成果の国際移転を活用することが必要であると、ほとんどのパリ協定参加国において認識されている。



では、これに合意しない限り、何もできないのだろうか。そんなことはない。実はREDD+の資金の議論では、2011年に開催されたダーバンでのCOP17³での決議で「代替的な資金源を含む公的、民間、二国間、および多国間の多様な供給源からもたらされ得る」との条文が採択されており、この「代替的な資金源」は、市場取引によるものを含むものも排除されないとの認識で交渉が行われてきた。これは2013年のワルシャワ合意⁴でも再度採択された。

³ <https://unfccc.int/process-and-meetings/conferences/past-conferences/durban-climate-change-conference-november-2011/cop-17>

⁴ <https://unfccc.int/process-and-meetings/conferences/past-conferences/warsaw-climate-change-conference-november-2013/cop-19>

REDD+の資金源（COP21決定）
Financial Sources of REDD+

Decision 1/CP.21, Article 54 (2015)

Recognizes the importance of adequate and predictable financial resources, including for results-based payments, as appropriate, for the implementation of policy approaches and positive incentives for reducing emissions from deforestation and forest degradation, and the role of conservation, sustainable management of forests and enhancement of forest carbon stocks; as well as alternative policy approaches, such as joint mitigation and adaptation approaches for the integral and sustainable management of forests; while reaffirming the importance of non-carbon benefits associated with such approaches; encouraging the coordination of support from, inter alia, public and private, bilateral and multilateral sources, such as the Green Climate Fund, and alternative sources in accordance with relevant decisions by the Conference of the Parties;

1/CP.21（COP21決定1ーパリ協定の採択、2015年）54条

（いわゆるREDD+活動の）成果支払い、適用と緩和共同アプローチ（JMA）も含め、適切で早期できる資金源の重要性を認識し、公共、民間、二国間、例えば緑の気候基金のような多国間、そして代替的資金源からの適切なCOP決定に準拠した調整された支援を奨励する。

そして、この同じ条文が COP21⁵決定の「パリ協定の採択」という 1/CP.21⁶においても再度踏襲されている。つまり、REDD+は市場メカニズム・アプローチも含めたいろいろな準備をどんどん進めていくことによって進めるべきだという国際的な認識があると考えられる。

REDD+成果支払いの進展 Status of REDD+ RBP

国数 number of countries	①REL submission （参照レベル提 出済） Sept. 2020	②GCF（緑の気 候基金）RBP （拠出決定） Nov 2019	③FCPF Readiness Fund (ERPD) 世銀FCPF準備基金 参加国 Sep 2019	④FCPF Carbon Fund (ERPD) 世銀FCPF炭素 基金参加国 Sep 2019
アジア (Asia)	14		11	5
中南米 (Latin America)	14	4	18	8
アフリカ (Africa)	13		18	7
合計 Total	41	4	47	20

出典 (Reference) :
①REL: UNFCCC REDD+ web platform
②GCF RBP: GCF 理事会決定文書
③④FCPF: 世銀FCPF

More financial sources including alternative are needed
更なる資金源（代替的資金源も含む）が必要

これまでの進展を若干振り返らせていただくと、既にワルシャワ枠組み⁷に基づいて 41 カ国が参照レベルを提出し、そのうち 4 カ国に Green Climate Fund⁸から資金が出ることが昨年の理事会で決定している。森林炭素パートナーシップ基金（FCPF）においても、47 カ国、準備資金が採択された中で、20 カ国についてはカーボンファンドという成果支払いのファンドを受けられることが既に決定している。このようにどんどん進んできている。

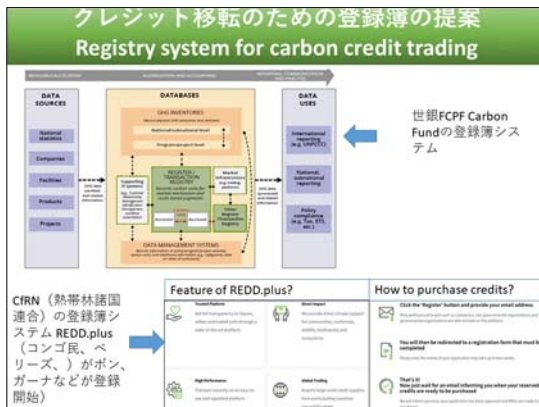
⁵ <https://unfccc.int/process-and-meetings/conferences/past-conferences/paris-climate-change-conference-november-2015/cop-21>

⁶ <https://unfccc.int/resource/docs/2015/cop21/eng/10a01.pdf#page=2>

⁷ <https://unfccc.int/topics/land-use/resources/warsaw-framework-for-redd-plus>

⁸ <https://www.greenclimate.fund/home>

Opening Session



さらにクレジット移転のための登録簿がなければ、市場メカニズムの国際移転が進まないということもあり、FCPF でもレジストリシステムの提案があった。また、熱帯雨林諸国連合⁹ (CIRN) でも登録簿システムの使用が肝要だということで、いろいろな国に働き掛けている。

今次セミナーの目的 Objective of the seminar

- 現在及び将来における、民間セクターを含む途上国への支援と実施におけるREDDプラスによる機会について、REDDプラスの技術的ツールとガイダンスや、REDDプラスの市場的アプローチや二国間・多国間協力の活用 に焦点を当て展望すること
- To explore current and future opportunities of REDD-plus including by **private sectors in support and implementation** of countries through overviewing the latest trend and newest development of **technical tools and guidance**, and by the use of **market-based approaches and bilateral, multilateral cooperation**

今回のセミナーの目的は、現在および将来における、民間セクターを含む途上国への支援と実施における REDD+による機会について、REDD+の技術的ツールとガイダンスや、REDD+の市場的アプローチや二国間・多国間協力の活用 に焦点を当て展望することである。

議論のステップ / Steps

1. REDDプラスの技術的発展は？→セッション1「REDDプラスの技術的ツールとガイダンス」
2. REDDプラスの支援や実施におけるクレジット利用は？→セッション2「REDDプラスの制度とクレジットの今後の展望」
3. 現在および将来の機会を検討することを通じて、今後のREDDプラスへの民間参画の一層の促進に向けた課題について議論を行う

By discussion of

1. Technical aspects?: Session 1: REDD-plus tools, guidelines and technologies
2. Use of market or support of implementation?: Session 2: REDD-plus voluntary cooperative approaches and result based finances
3. By reviewing the history of development and most recent trends in both of the technical and institutional aspects of REDD+, and explaining current and future opportunities.

REDD Japan

⁹ <https://www.rainforestcoalition.org/about/>

世界各国から専門家をお招きし、モニタリング手法などの技術的な最新動向と政策面・資金面でどこまで来たかについて、森林総研の REDD 研究開発センターのこれまでの成果と共に情報共有をしていただき、現在および将来の機会を検討することを通じ、今後の REDD+への民間参画の一層の促進に向けた課題について皆さまと一緒に議論をしていきたい。

キークエスチョン

REDDプラス支援活動への民間参画を推進するためには何が必要か？

Key Questions

What to do to enhance private sector participation to REDD-plus support for implementation?



キークエスチョンは「REDD+支援活動への民間参画をさらに推進するためには何が必要か」、これを念頭に置いて議論を進めていただきたい。

Keynote presentation 1
基調講演 1



REDDプラスの歴史と展望：UN-REDDプログラムの10年間の取り組み

Overview and prospect of REDD-plus and 10 years of experience of the UN-REDD Programme

マルゴラザタ・ブシュコブリッグス プログラム・オフィサー（国連食糧農業機関（FAO）/国連REDDプログラム（UNREDD））
Dr. Malgorzata Buszko-Briggs, Programme Officer, FAO/UN-REDD



まず、キーノートスピーカーとして、「REDD プラスの歴史と展望：UN-REDD プログラムの10年間の取り組み」という題で、Malgorzata Buszko-Briggs 国連食糧農業機関/UN-REDD プログラム¹⁰オフィサーからお話を頂く。

¹⁰ <https://www.un-redd.org/>

Opening Session

Keynote presentation 2
基調講演 2



ミャンマーにおけるREDDプラスの結果に基づく支払いと持続可能な開発支援

REDD-plus for Results-based-payment and supporting Sustainable Development in Myanmar

ニィ・ニィ・キョウ (ミャンマー天然資源・環境保全省 森林局長)
Dr. Nyi Nyi Kyaw (Director General of Forest Department, Ministry of Natural Resources and Environmental Conservation, Myanmar)



続いて2人目は、ミャンマーの非常に高いREDD+のポテンシャルを最大限に引き出すため強力な指導力を発揮し、急速な発展を導いておられる天然資源・環境保全省のNyi Nyi Kyaw 森林局長から、ミャンマーにおける取り組みについてお話しいただく。

Session 1:
「REDDプラスの技術的ツールとガイダンス」
REDD-plus tools, guidelines and technologies

Moderator: Dr. Kazuki Miyamoto (FFPRI) / 宮本和樹 (森林総研)

- REDDプラスにおける森林炭素モニタリングの意味
What is the point of forest carbon monitoring in REDD-plus?
Dr. Sato Tamotsu (FFPRI) / 佐藤保 (森林総研)
- 削減目標の達成におけるREDDプラスの役割と国別報告書への反映
Role of REDD-plus for Nationally Determined Contributions and ways to incorporate to National Inventory Report
Dr. Sandro Federici (IPCC) / サンドロ・フェデリチ (IPCC)
- REDDプラスへの道：PNGの挑戦と機会
The Road to REDD-plus: Papua New Guinea's Challenges and Opportunities
Dr. Ruth Turia (PNG Forest Authority) / ルース・トゥリア (PNG森林公社)



続いてセッション1においては、森林総研の宮本和樹主任研究員がモデレーターとなり、「REDDプラスの技術的ツールとガイダンス」をテーマに2名の専門家からお話しいただく。

<p>Session 2: REDDプラスの制度とクレジットの今後の展望 REDD-plus voluntary cooperative approaches and result based finances</p> <p>Moderator: Dr. Kanako Morita (FFPRI) / 森田香葉子 (森林総研)</p> <ul style="list-style-type: none"> • REDDプラスプロジェクトによるパフォーマンスの国レベルでの評価 Evaluating the performance of REDD-plus projects at the national level Dr. Ehara Makoto (FFPRI) / 江原誠 (森林総合研究所) • JICAによるREDDプラス国際協力の取り組み JICA's cooperation on REDD-plus Mr. Takahiro Morita (JICA) / 森田隆博 (国際協力機構) 	<p>Session 2: REDDプラスの制度とクレジットの今後の展望 REDD-plus voluntary cooperative approaches and result based finances</p> <p>Moderator: Dr. Kanako Morita (FFPRI) / 森田香葉子 (森林総研)</p> <ul style="list-style-type: none"> • パリ協定6条の実施及び二国間クレジット制度 (JCM) Implementation of Article 6 of the Paris Agreement and the Joint Crediting Mechanism (JCM) Ms. Maiko Uga (Ministry of Environment) / 宇賀まい子 (環境省) • AIDERの取り組み：ペルー・ウカヤリ県の先住民コミュニティにおけるREDDプラスプロジェクト AIDER's experience: REDD-plus project in Shipibo Conibo and Cacataibo native communities in the Ucayali region - Peru Ms. Sylvia Mayta (AIDER, Peru) / シルビア・マイタ (AIDER, ペルー) 
--	--

セッション2においては森林総研の森田主任研究員がモデレーターを務め、「REDDプラスの制度とクレジットの今後の展望」に関して、4人の専門家から情報を提供いただく。

Panel Discussion:
REDDプラス支援活動への民間参画を推進するためには何が必要か？
What to do to enhance private sector participation to REDD-plus support for implementation?

Moderator: Mr. Osamu Hashiramoto (ITTO) / 柱本修 (国際熱帯木材機関)

パネリスト Panelists :

- Dr. Malgorzata Buszko-Briggs, Programme Officer, FAO/UN-REDD
- Dr. Nyi Nyi Kyaw (Director General of Forest Department, Ministry of Natural Resources and Environmental Conservation, Myanmar)
- Dr. Sato Tamotsu (FFPRI) / 佐藤保 (森林総研)
- Dr. Sandro Federici (IPCC) / サンドロ・フェデリチ (IPCC)
- Dr. Ehara Makoto (FFPRI) / 江原 誠 (森林総合研究所)
- Mr. Takahiro Morita (JICA) / 森田隆博 (国際協力機構)
- Ms. Maiko Uga (Ministry of Environment) / 宇賀まい子 (環境省)
- Ms. Sylvia Mayta (AIDER, Peru) / シルビア・マイタ (AIDER, ペルー)
- Dr. Aya Uraguchi (Conservation International Japan) / 浦口あや (コンサベーション・インターナショナル・日本支部)



最後に ITTO の柱本次長が司会を務め、「REDD プラス支援活動への民間参画を推進するためには何が必要か？」と題したパネルディスカッションを行う。こちらはこれまで登壇いただいた皆さまとディスカッションを行い、皆さまからの質疑も時間が許す限り、受け付けたい。

Panel Discussion:
REDDプラス支援活動への民間参画を推進するためには何が必要か？
What to do to enhance private sector participation to REDD-plus support for implementation?

Moderator: Mr. Osamu Hashiramoto (ITTO) / 柱本修 (国際熱帯木材機関)

導入報告 Introductory Presentation :

- **カンボジアにおける二国間クレジットメカニズム (JCM) の取組**
Implementation of Joint Crediting Mechanism in Cambodia
Dr. Aya Uraguchi (Conservation International Japan) / 浦口あや (コンサベーション・インターナショナル・日本支部)



また、パネルディスカッションの冒頭に、カンボジアで政府・企業・地域住民をパートナーに REDD+事業を推進・支援してきている、コンサベーション・インターナショナル日本支部¹¹の浦口あやディレクターに「カンボジアにおける JCM REDD プラスの取り組み」という主題でお話しいただく。

¹¹ <https://www.conservation.org/japan>

Opening Session



本日の終了時には「REDD+の今」についてアップデートしていただき、今、何に取り組むべきか、ご参加の皆さまと共に考え、共に行動するきっかけとなれば幸いです。